ジオさんぽ 2024in 多賀城

開催日：令和 6 年 11 月 16 日(土)
場所：多賀城跡及び多賀城市内(宮城県多賀城市)
参加者：20 名（＋案内者 1 名、担当幹事 4 名）

1. は じ め に

一般参加者を対象としたアウトリーチ活動として、東北支部では令和元年以来となるジオさんぽを、本年度は多賀城創建 1,300 年記念に合わせ、11 月の小春日和のなか開催いたしました。

案内者に東北大学名誉教授の永広昌之先生を迎えて見学コースにて、地質にまつわる丁寧な説明をいただきました。また、担当幹事も地元出身者ならではの詳しい歴史知見、事情も説明することができました。

周辺の交通事情もあり、定刻の午前 10 時よりやや遅れて集合し、見学が開始しました。午前は多賀城跡周辺の説明（写真-1）となり、午後はジャンボタクシーに分乗し、平安時代の多賀城と貞観津波の関係、江戸時代からの観光地であった末の松山を見学しました。また、終戦後まで水田内に小山として残っていた「沖の石」の跡地についても見学し、午後 3 時半ごろの解散となりました。

写真-1　参加者による多賀城政庁での集合写真

2. 見学コース

2.1 多賀城周辺（多賀城碑・南北大路・政庁・佐浦町層の露頭）

(1)多賀城碑

多賀城碑（写真-2）は、今年、国宝に指定されたもので、覆屋に納められていました。碑の母材となっている三畳系利府層アルコース砂岩の成因や、花崗岩と同様の風化残留礫の形成過程により石碑サイズになることばかりでなく、地層に含まれる化石についても説明を受けました。

写真-2　多賀城碑

(2) 南門～南北大路

復元南門の整備前には、南門周辺に多くのアルコース砂岩の転石が存在したとのことですが、現在は遺跡の保存のためその上部に 2 m ほどの盛土（写真-3）をしてきれいに整地されていました。そのため、過去の発掘調査資料により巨礫の説明を受けました。また、南北大路脇には、後世の板碑が多く存在し、その母材もアルコース砂岩が多いとのことです。

写真-3　南門前から南北大路の状況

(3) 政庁跡～佐浦町層の露頭

政庁跡では、復元で置かれたものもあるものの、創建当時の礎石も残されており、アルコース砂岩の石材に顔を近づけ、ルーペをのぞき込んで粒度組成を確認するなどしました。（写真-4）

政庁前の石敷広場では、安山岩の玉石などが使用されており、その由来としては佐浦町層の露頭（写真-5）に含まれる安山岩の円礫も考えられるとのことでした。

写真-4　政庁正殿跡の礎石（創建当時のもの）

写真-5　佐浦町層の露頭

2.2 国司（高級官僚）の館跡

国司（高級官僚）の館跡（写真-6）は、現在、三陸道が建設されている川沿いの低地です。建設時には発掘調査が実施され、その時の資料により説明がありました。この場所では、イベント堆積物や十和田火山のテフラが確認されており、貞観津波前後の関係について説明がありました。人文学的遺構のなかに、地質学的イベントが記録されている貴重な場所でしたが、現在、直接見ることができないのが残念でした。

写真-6 国司（高級官僚）の館跡

2.3 「志引石」と神社裏

「志引石」（写真-7）は、誰も動かせず通行の邪魔となっていた巨石を娘が動かし２つに割れてこの地に落ちたものとの伝説が残ります。神社裏（写真-8）や付近には、アルコース砂岩の巨大な転石や、露頭を確認できました。巨大な転石の付近には、石碑などがあり、巨石が信仰の対象になっている様子が伺えました。

写真-7 神社裏の露頭

写真-8 志引石

2.4 歌枕「末の松山」「沖の井」

江戸時代からの観光地であった末の松山（写真-9）は、小高い丘にありました。「大津波が超えてはならぬ」という意で歌枕となったとされるとのことですが、周囲の路地には、東日本大震災の津波到達高さを表す掲示版があり、これと比較すると、この丘は数メートル上にありました。

沖の井（写真-10）は、頁岩による景勝ですが、池に囲まれルーペの届くものではありませんでした。堆積面より節理面が顕著に風化しているようでした。

写真-9 末の松山

写真-10 沖の井

沖の井では、湧水に関する地下水の由来について、参加の谷藤氏より、説明がありました。

2.5 沖の石

終戦後まで水田内に小山状に残っていたとみられる「沖ノ石」の跡地(写真-11)についても見学しました。

現在は、すっかり整地されています。景勝的に、少しインパクトがなかったのか、まつわる逸話がなかったのかはわかりませんが、伝承が途絶えた場所の末路に少し悲しいものを感じました。もし、存在していれば、地質文献で化石産出も報告されている頁岩が見れたかもしれません。

また、「沖の井」と「沖の石」の名称併記に関して議論もあったらしく、是非とも「沖の石」の地名復活があることを望みます。

写真-11　沖ノ石の跡地付近

2.6 おまけ：多賀城附廃寺跡

帰路に多賀城附廃寺（写真-12）に立ち寄りました。地質的な観察地点ではありませんが、多賀城の付属寺院で、多賀城と同時に創建されたものでした。塔の心礎など当時の遺構がきれいに残っており、市民の憩いの場となっていました。

写真-12　多賀城附廃寺

3. お わ り に

当日は、終始天候に恵まれ最後まで風もなく、良い見学日和でした。配布資料も、本見学会用の資料に加え、多賀城市教育委員会から「多賀城碑」「多賀城附廃寺跡」「南門等復元事業の概要」の資料をいただき配布することができました。記して御礼申し上げます。多賀城創建 1,300 年記念に勝手に協賛したイベントとして、本学会で、さんぽすることができとても有意義な１日となりました。解散時には、東北歴史博物館へそのまま足を運ばれた方もおりました。

参加者からは、永広昌之先生の石についての詳しい話を聞きながら歩くことができたと好評な意見が聞かれました。さらに、来年も参加するので是非開催してほしいという強い要望がありました。

皆様、疲れ様でした。

以上

(文責：千葉)